

2023年5月16日 社長会見要旨

【会見要旨】

本日は、自由料金を含む低圧のお客さまの電気料金の見直しについてご説明いたします。お手元のパワーポイント資料の2ページをご覧ください。

当社は、本日、経済産業省からいただいた修正指示を反映した、規制料金である特定小売供給約款の補正申請を行いました。補正申請は、至近の燃料価格や卸電力市場価格の低下を踏まえた需給関係費等の再算定や、国による審査等の内容を反映したのとなっており、6月1日から小売料金値上げ分20.64%に、新たな託送料金制度にもとづく託送料金値上げ分の2.58%を加えた23.22%の値上げとなります。

低圧自由料金につきましても、補正申請の内容を踏まえ、1月26日に公表した値上げ内容を見直します。

なお、本日午前の国の公表内容を受けて、20.1%といった値上げ率がすでに報道されています。これは国が、他社との横並びの観点から、規制料金の現行収入に、あらかじめ託送料金の値上げ分を加えて算定された数値と認識しています。実際の当社の規制料金の値上げ率は、今申し上げた23.22%となります。

電気料金値上げに伴い、公聴会や当社へのお問い合わせなどで、お客さまから多くのご意見をいただきました。電気は生活や産業の基盤であること、そして、北海道の皆さまへの影響の大きさを重く受け止めています。今回の補正により、値上げ率は当初の申請時より低減することになりましたが、現下の厳しい経済情勢において、お客さまに、一層のご負担をおかけすることにつきまして、誠に申し訳なく、深くおわび申しあげます。

【補正申請の概要】

それでは、補正申請や値上げの内容について、ポイントを絞り、ご説明させていただきます。

資料の3ページをご覧ください。2023年度から2025年度までの総原価は、年平均で7,562億円と、当初の申請原価からは789億円の減少となりました。

4ページには補正申請の内容を記載しています。申請後の燃料価格低下を踏まえた再算定532億円に加え、経営効率化や需給関係費、修繕費等に対する査定257億円により、合計で789億円の補正額となっています。

5ページをご覧ください。規制料金の値上げ幅につきましては、1月申請時の34.87%から11.65ポイント低下し、23.22%の値上げとなります。

お客さまの実際のご負担額については、後ほど、ご説明しますが、今回の料金原価の前提よりも至近の燃料価格は低下しており、燃料費調整によって、さらに軽減されます。また、今回の料金原価には泊発電所の再稼働を織り込んでいませんが、早期再稼働に向けて総力を挙げて取り組み、再稼働後には再稼働メリットを反映し、適正な水準で値下げを実施いたします。

【規制料金の値上げ概要】

次に、6ページをご覧ください。規制料金のモデル試算ですが、多くのご家庭でご利用いただいている「従量電灯B」の場合、22.6%の値上げとなります。

7ページをご覧ください。電気料金には、為替レートや燃料価格の変動分を速やかに反映する「燃料費調整」という仕組みがあります。電気料金見直し後の6月分電気料金においては、至近の燃料価格が低く推移していることから、マイナス調整により電気料金が減額されます。

8ページには、「従量電灯B」のお客さまの実際のご負担額のイメージをお示ししています。6ページに記載の「値上げ後の料金10,287円」に、今ご説明した6月分の燃料費調整や、国による激変緩和対策を反映しますと、8,299円となります。今後も燃料価格の低下が継続する場合は、燃料費調整により、7月分以降もお客さまのご負担はさらに軽減されます。

【自由料金の値上げ概要】

次に、低圧自由料金の値上げについて、12ページをご覧ください。低圧自由料金は、規制料金の電気料金水準を踏まえて設定させていただきます。

13ページに、主な自由料金メニューのモデル試算をお示ししています。ご家庭などにご利用いただいている「エネとくポイントプランB」の場合、8.1%の値上げとなります。

14ページをご覧ください。お客さまには、只今ご説明しました値上げの概要につきまして、戸別に配布するチラシやホームページなどを通じて、広くお知らせしてまいります。

当社は、お客さまに電力を安定的にお届けすることを第一に、引き続き、経営効率化に取り組むとともに、少しでもお客さまのご負担軽減につながる省エネサービスなどをご提案してまいります。何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

私からは以上です。